

エコアクション21

平成26年度
環境活動レポート

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

神鋼メタルプロダクツ株式会社

平成27年6月30日

1 組織の概要

(1) 事業所名、所在地および代表者

事業所名：神鋼メタルプロダクツ株式会社

所在地：

本社及び本社工場 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号

販売部(大阪) 大阪市中央区備後町4丁目1-3 御堂筋ビル

代表者：代表取締役社長 原口 一彦

(2) 環境管理責任者および連絡先

環境管理責任者：取締役工場長 行壽 啓之

連絡先：総務室室長 中原 圭治

TEL(093)381-1331 FAX(093)381-3833

(3) 事業の概要

復水管、銅・銅合金管、モールド、複合製品、熱交製品、その他各種加工品の製造・販売

(4) 事業の規模

売上高：64 億円

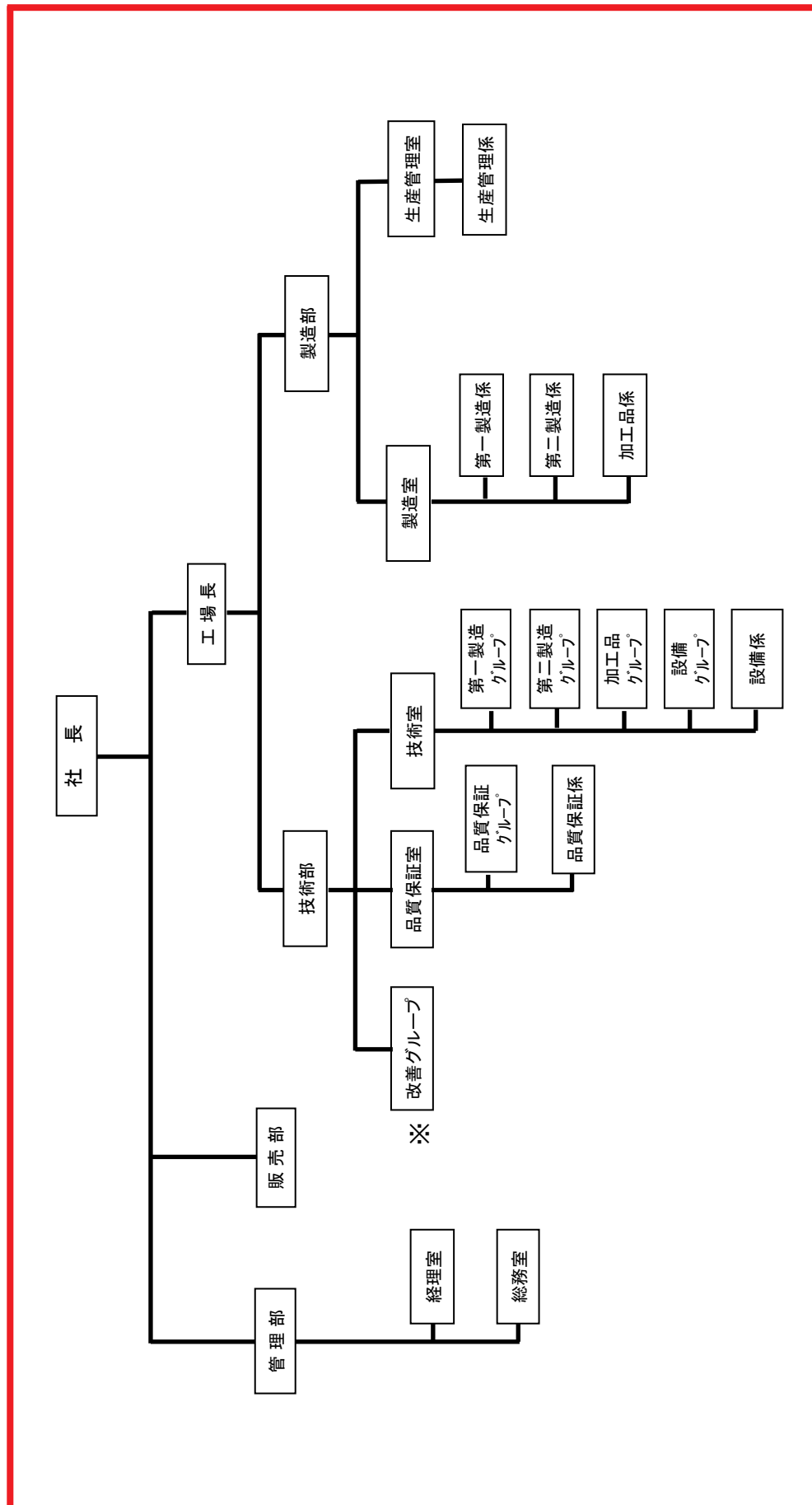
従業員数：187 名

敷地面積：52,000 m²

建屋面積：32,400 m²



(5) 認定対象部署



※2015年1月1日組織変更

環境方針

1. 基本理念

神鋼メタルプロダクツ株式会社は、地球環境の保全がすべての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが使命であると認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、事業活動のあらゆる面において、環境に配慮して行動することを決意します。

2. 行動指針

全従業員参加による下記取組みを継続的に推進します。

1. 事業活動にともなう二酸化炭素排出量の削減、水総使用量の削減、廃棄物排出量の削減・再資源化(リサイクル化)、化学物質使用量の削減により、環境負荷の低減を図ります。
2. 事業活動で使用する資材・用品のグリーン購入を促進します。
3. 環境にやさしい製品の生産・販売及びサービスの提供と開発に取り組めます。
4. 事業活動に係わる環境関連の法規・条例等を遵守します。
5. 社会、地域との共生を図ります。
6. この環境方針を全従業員に周知するとともに、教育・訓練をおこない、継続的な活動を推進します。

制定 平成18年10月1日

改訂 平成24年 6月21日

北九州市門司区小森江2丁目2番1号

神鋼メタルプロダクツ株式会社

代表取締役社長

原、口一彦

1. 目標の達成状況

H26年度の環境目標と実績は以下の通りです。

二酸化炭素排出量の削減はほぼ達成出来、産業廃棄物、化学物質、資材・グリーン購入、環境にやさしい製品の生産・販売等目標達成できましたが、他の2項目は目標を達成する事が出来ませんでした。

| 目 標 項 目 | 単 位 | H21年度 EA21 再基準年 | H25年度 実 績 | H26年度 目 標 | H26年度 実 績 |
|--|------------------------------------|-----------------------|--------------|--------------|--------------|
| 1 二酸化炭素 排出量の削減 | ton-CO ₂ /生産数量 (ton) | 1.961 | 2.197 | 2.177 | 2.143 |
| 2 上水+地下水 総使用量の削減 | m ³ /生産数量(ton) | 7.989 | 10.618 | 9.313 | 10.060 |
| 3 産業廃棄物 排出量の削減 | ton/年 | 169 | 702 | 666 | 584 |
| 4 化学物質 使用量の削減 (ジクロロメタン) | kg/年 | 4,406 | 5,800 | 2,000 | 1,750 |
| 5 資材・用品等 のグリーン購入 | 万円/月 | — | 1,955 | 1,287 | 1,370 |
| 6 環境にやさしい 製品の生産・販売 、サービスの提供と 開発 | アイテム/年(開発) | — | 0 | 1 | 1 |
| | 万円/年 (保守総合診断) | — | 7,000 | 6,600 | 5,700 |

※ 二酸化炭素排出量

H26年度実績は、原単位でH21年度(EA21再基準年)より、9.3%悪化しています。

二酸化炭素排出係数は、EA21スタート時から同じ:0.37399を使用しています。

(排出係数は、鉄鋼連盟自主行動計画で使用している数値)

※ 上水+地下水総使用量

H26年度実績は、原単位でH21年度(EA21再基準年)より、25.9%悪化しています。

※ 産業廃棄物排出量

H26年度実績は、H21年度(EA21再基準年)に比べ、3倍以上に大幅悪化しています。

※ 化学物質使用量の削減(ジクロロメタン)

H26年度実績は、H21年度(EA21再基準年)に比べ、40%以下に減少しています。

※ 資材・用品等のグリーン購入

H26年度実績は、H26年度目標を6.4%超過達成しました。

※ 環境にやさしい製品の生産・販売、サービスの提供と開発

モールド用銅合金管の熱間工程省略を達成しました。

保守総合診断の生産高は、ほぼ達成しましたが、電力関係の時期ずれの関係で売上高は、達成出来ませんでした。

2. 今年度以降の目標

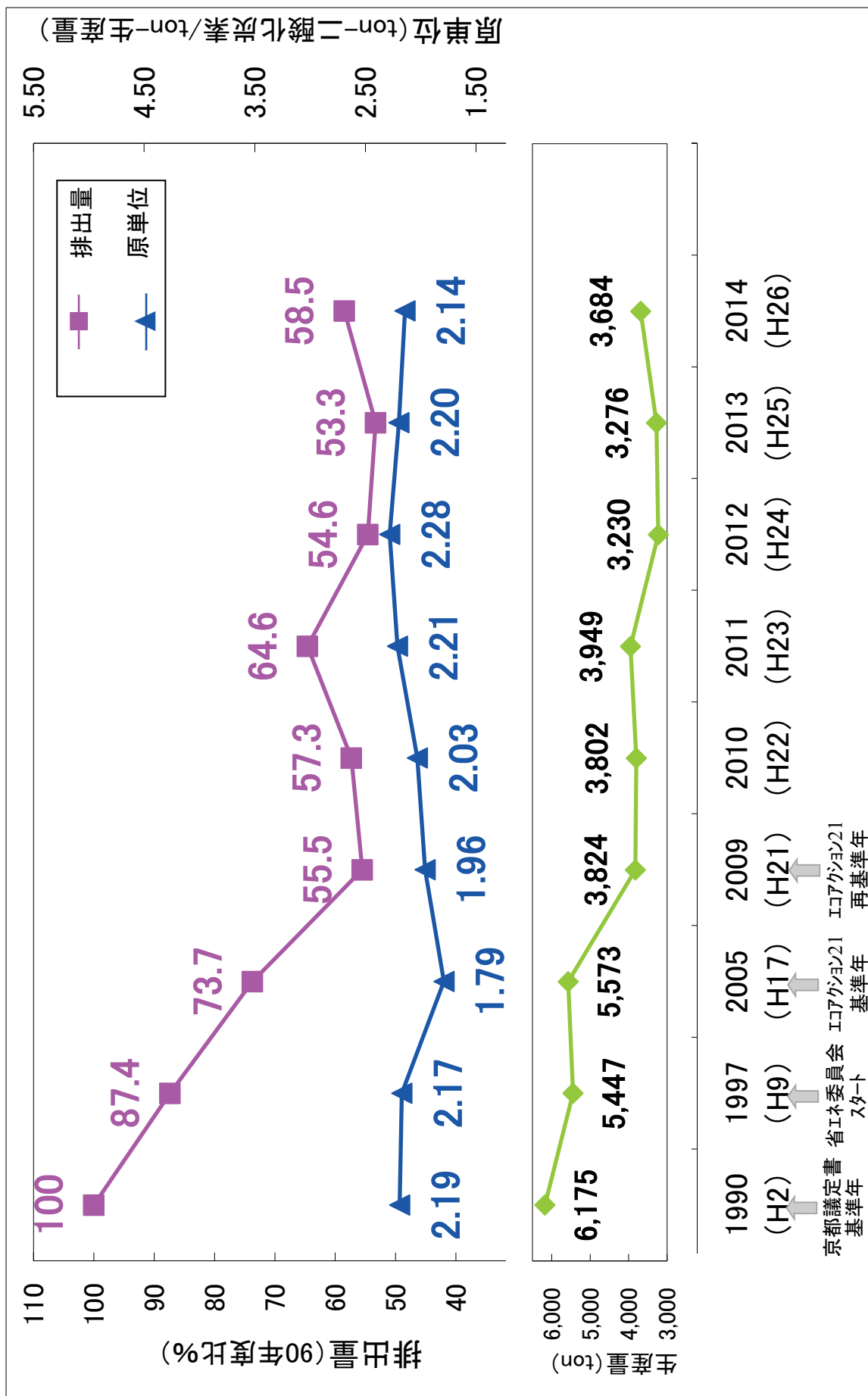
| 目 標 項 目 | 単 位 | H24年度 実 績 | H25年度 実 績 | H26年度 実 績 | H27年度 目 標 |
|--|------------------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 1 二酸化炭素 排出量の削減 | ton-CO ₂ /生産数量 (ton) | 2.284 (-16.5%) | 2.197 (-12.0%) | 2.143 (-9.3%) | 2.132 (-8.7%) |
| 2 上水+地下水 総使用量の削減 | m ³ /生産数量(ton) | 8.626 (-8.0%) | 10.618 (-32.9%) | 10.060 (-25.9%) | 9.313 (-16.6%) |
| 3 産業廃棄物 排出量の削減 | ton/年 | 635 (-276%) | 702 (-315%) | 584 (-246%) | 385 (-128%) |
| 4 化学物質 使用量の削減 (ジクロロメタン) | kg/年 | 6,850 (55.5%) | 5,800 (31.6%) | 1,750 (60.3%) | 0 (-100%) |
| 5 資材・用品等 のグリーン購入 | 万円/月 | 1,959 | 1,955 | 1,370 (6.4%) | 1,523 (18.3%) |
| 6 環境にやさしい 製品の生産・販売 、サービスの提供と 開発 | アイテム/年(開発) | 0 | 0 | 1 (100%) | 1 (100%) |
| | 万円/年 (保守総合診断) | 6,500 | 7,000 | 5,700 (86%) | 7,200 (109%) |

* 目標項目1~4の()内%は、平成21年度(EA21再基準年)からの削減率を示す。

* 目標項目5~6の()内%は、平成26年度目標からの削減率・達成率を示す。

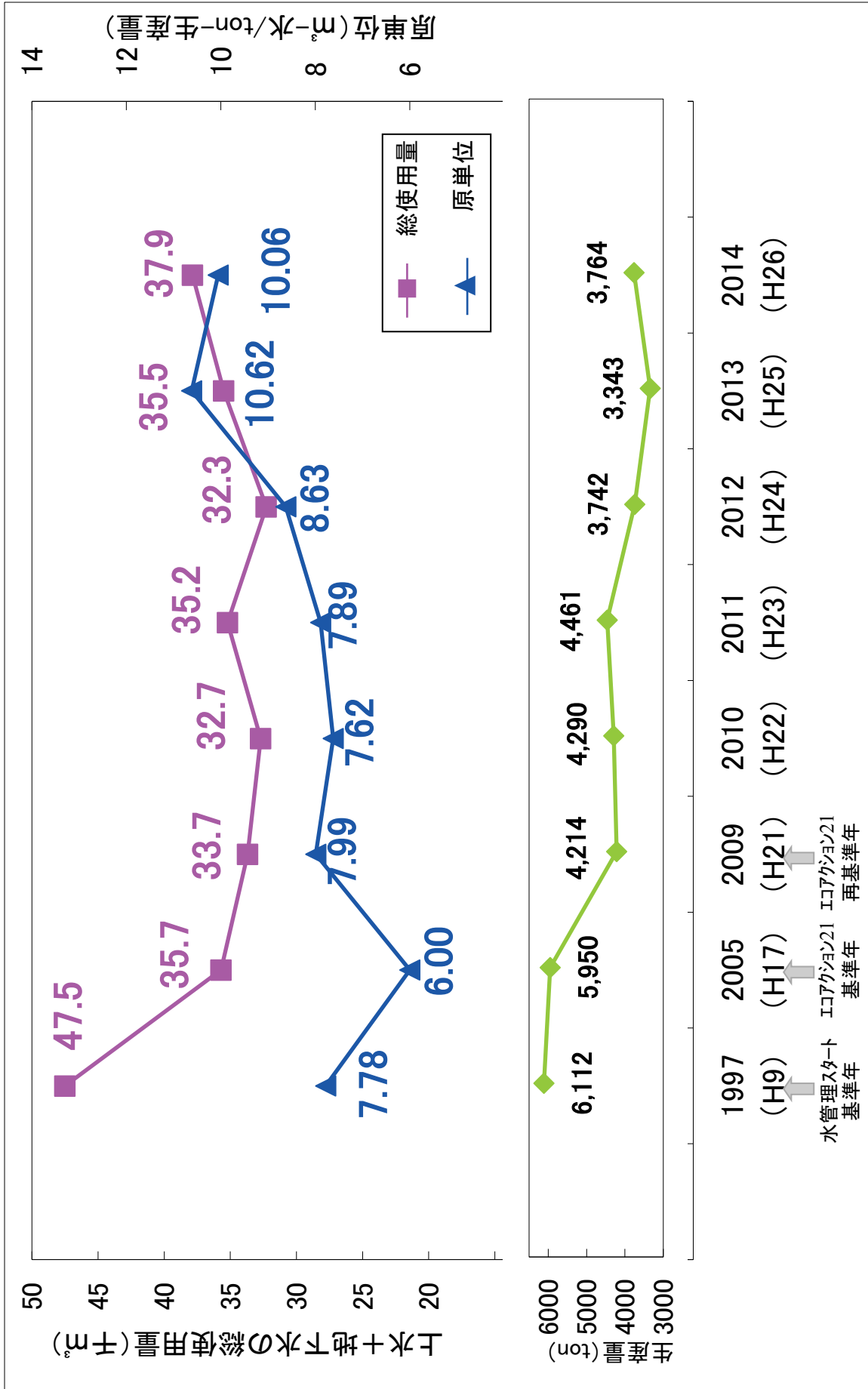
* 排出係数は、鉄鋼連盟自主行動計画で使用している数値(0.37399kg-CO₂/kWh)。

(1) 温室効果ガス(二酸化炭素)の排出量と原単位の推移

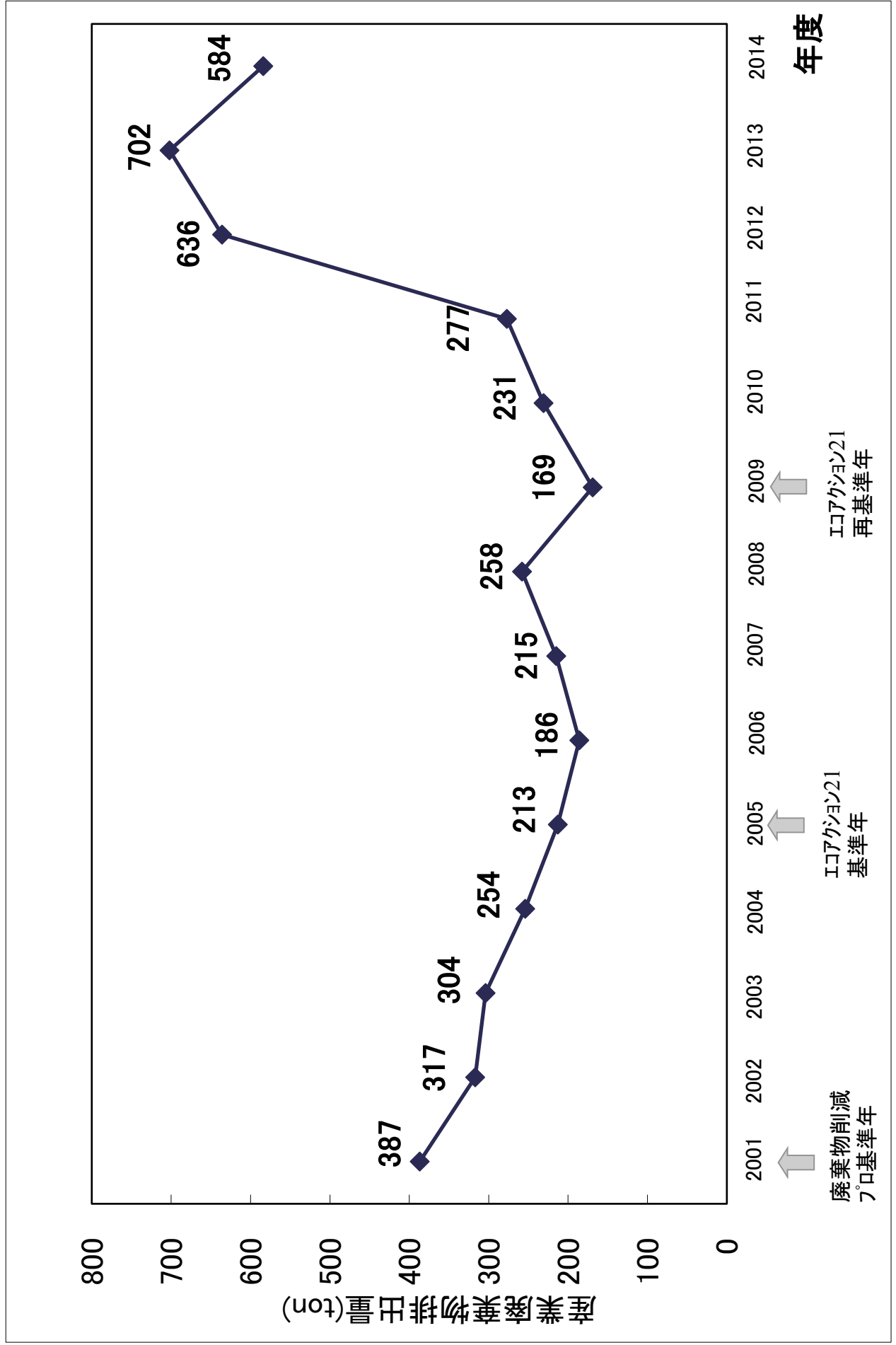


※原単位=2013年度の数値を誤記修正した(2.16→2.20)。

(2) 上水+地下水の総使用量と原単位の推移



(3)産業廃棄物の排出量の推移



4 主な環境活動への取組み

1. 二酸化炭素排出量削減のための取組み

- ビレット予熱炉の耐火物補修を行い、放熱ロスを低減します。
- 各機器の蒸気漏れ防止を継続します。
- 各機器のエアリーク防止を継続します。
- 本社事務所の省エネ(空調、照明、給湯器)を継続します。

2. 上水+地下水使用量削減のための取組み

- 雨水の回収(設置する雨水中継槽の活用等)を拡大し、水総使用量を削減します。

3. 産業廃棄物排出量削減のための取組み

- 廃油の再生・再利用を継続し、排出量の削減を継続推進します。
- めっき液の劣化対策を継続し、排出量の削減を継続推進します。
- 梱包用木材の再使用・再利用を継続推進し、廃木材の排出量削減を継続します。
- 廃棄物の有価化の新規検索と従来の有価処理を継続推進します。

4. 化学物質使用量の削減

- ジクロロメタンの代替化を継続し、使用量削減を推進します。
- 代替品の排出ゼロを事前に検討し、有価処理化を同時に推進します。

5. 資材・用品等のグリーン購入

- 市中屑とリサイクル原料の活用を継続推進します。

6. 環境にやさしい製品の生産・販売、サービスの提供、開発

- 新製品を1アイテム、開発します。
- 復水管等の保守総合診断を継続推進します。

5 環境活動の取組結果の評価

1. 二酸化炭素排出量の削減（目標 2.177 → 実績 2.143 ton-CO₂/ton）

下記(1)(2)の活動を実施し、目標を達成することができました。

(1) 電気使用量の削減

- 全工場のエアリー漏れ箇所の点検・補修を継続実施し、エアリー漏れを撲滅し、電気使用量の低減を継続しました。
- 本社事務所の空調機運転管理基準を遵守、蛍光灯の間引き、給湯器の夏場電源停止を行い、電気使用量を低減を継続しました。

(2) 都市ガス・A重油使用量の削減

- ビレット予熱炉の耐火物更新と共に高断熱材に改善して放熱ロスを低減し、都市ガス使用量を低減しました。
- 蒸気加熱槽1か所（ピアサー酸洗槽）を「操業－保温」の2段階温度管理化し、蒸気使用量を低減し都市ガス使用量を低減しました。
- 全工場の蒸気漏れ箇所の点検・補修を継続実施し、蒸気漏れを撲滅し、都市ガス使用量の低減を継続しました。

(3) その他

- 生産量増（前年度比15.5%増）の影響で、連続操業率が上り設備運転効率が改善出来ました。
- 下四半期は、ビレット予熱炉ガス均圧弁不良の発見が遅れ、改善効果を低減させました。

2. 上水＋地下水使用量の削減（目標 9.313 → 実績 10.060 m³/ton）

- 雨水の回収（設置する雨水中継槽の活用等）を拡大し、水総使用量を削減しましたが、目標達成することができませんでした。

3. 産業廃棄物排出量の削減（目標 666 → 実績 584 ton/年）

以下の活動を実施し、目標達成することができました。

- 抽伸油 (K₂C) とLFT洗浄液管理を行い、廃油排出量の低減を継続・推進しました。
- 回収木箱を再利用・再加工し、廃木材排出量低減を継続・推進しました。
- 第一製造係: 圧延機のクランク油更新及びバネ鋼のテスト圧延のために、前年度に油の入替え及び3Sを実施した効果があり汚泥排出量が減少しました。
- 第二製造係: 一般管モールド班; めっき廃液は、3Sにより前年度比で削減しました。設備改善、3Sによる堆積物清掃後の汚泥排出量が減少したためです。
- 加工品係: ケニコートNiめっき安定化に伴い廃液量が大幅に減少したためです。
- その他
各設備のトラブル等減少による、突発的な廃油等の排出量が減少しました。
廃酸スラッジによる硫酸銅の有価物量は設備の安定化管理により増加しました。
受注明細の差異により珪砂排出量が減少しました。

4. 化学物質使用量の削減（目標 2,000 → 実績 1,750 kg/年）

- ジクロロメタン使用量は目標2000kg/年に対し、1750kg/年と目標達成できました。
原因としては、洗浄用代替品の検証が進んでいるためです。

5. 資材・用品等のグリーン購入（目標 1,287 → 実績 1,370 万円/月）

- 市中屑とリサイクル原料の入手をし、目標を超過達成しました。

6. 環境にやさしい製品の生産・販売（目標 1 → 実績 1 アイテム/年）、 サービスの提供と開発（目標 6,600 → 実績 5,700 万円/年）

- モールド用銅合金管の熱間工程省略を達成しました。
- 保守総合診断の生産高は、ほぼ達成しましたが、電力関係の時期ずれの関係で売上高は、達成出来ませんでした。

4. 次年度の取組内容

次年度の主な取組内容は、以下の通りです。

- 1) 二酸化炭素排出量の削減
 - ビレット予熱炉ガス均圧弁更新, 燃焼効率を改善しガス使用量を削減します。
 - 一部製品の製造工程改善し中間焼鈍省略し、電気使用量を削減します。
 - 製品検査場の天井灯を高効率品に更新し、電気使用量を削減します。
 - バッチ式電気炉の耐火物更新し、電気使用量を削減します。
 - 各機器の蒸気漏れ防止を継続します。
 - 各機器のエア漏れ防止を継続します。
 - 本社事務所の省エネ(空調、照明、給湯器)を継続します。
- 2) 上水+地下水使用量の削減
 - 雨水回収の拡大による水総使用量の削減を継続します。
- 3) 産業廃棄物排出量の削減
 - Niめっき廃液の社内処理を継続し、排出量を削減します。
 - 廃油を回収し、再使用、再利用を継続し、排出量を削減します。
 - 廃木材の再使用、再利用を継続し、排出量を削減します。
 - 廃棄物の有価化、市場開拓【廃プラ】を進めます。
- 4) 化学物質使用量の削減
 - ジクロロメタンの代替化を継続し、全廃します。
- 5) 資材・用品等のグリーン購入
 - 市中屑とリサイクル原料の活用を継続します。
- 6) 環境にやさしい製品の生産・販売、サービスの提供、開発
 - 新製品を1アイテム、開発します。
 - 復水管等の保守総合診断を継続します。

5. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

- 関係機関等からの指摘及び利害関係者からの訴訟や苦情は過去3年間ありませんでした。

6. 代表者による全体評価と見直し結果

- 1) 全体評価
 - ① 活動結果を安衛環防委員会で報告するように見直したことで、従業員の環境に対する意識が向上したと実感出来る様になりました。
 - ② 具体的な活動計画をコストプロ会議で報告することにし、PDCAが良く回る様に改善出来ました。
 - ③ 産業廃棄物排出量は、目標達成しましたが、活動の効果と言うよりは、自然減の感があります。
 - ④ ジクロロメタンの代替品の検証が進み、化学物質使用量の削減が出来ました。
 - ⑤ 新製品関係のモールド用銅合金管で工程省略を達成出来ました。
- 2) 見直しの結果
 - ① テーマと責任者を明確にし、コストプロ会議にて達成するためのアクションを報告する様に改善します。
 - ② 27年度の目標については、現状に即した目標及び27年度の取組課題の効果を織り込んだものに見直します。